岩手大学教育学部附属教育工学センター教育工学研究　第10号（1988）pp. 149－161

■ 原著 ■

教師の身体動作比較のための落語家の身体動作分析

── 話者内交互作用と対人的交互作用（笑い）──

大河原　　清*

（1988年1月20日受理）

Kiyoshi OKAWARA

An Analysis of Rakugo Speaker's Gestures in order to Compare them with Teacher's Behavior
──Monologue Interaction in One Person Who Plays Two Characters And Interpersonal Interaction──

本稿は，Ekman らの例示的動作の分類を用いて，落語家の身体動作の特徴を量的に明らかにしている。結果から，落語家の身体動作は8割近くが話言葉を補っていることが分かった。例示的動作の分類では，その4割近くがアンダーライナーとして直接話言葉を強調し，残り4割が空間動作，活動動作，指示動作，様態動作，象形動作であった。教師の効果的な伝達方法とはどのようなものであるかの基礎的研究として，落語家の話し方で示唆される伝達手段がどのようなものであるかを調べようとしたものである。

〔キーワード〕身体動作，非言語的行動，NVC，落語，落語家，例示的動作

1. はじめに

教師が授業で伝えるべき内容と，それをどのように伝達するかは，車の両輪であり，共に重要な研究対象である。

本研究は，どのように伝達するかに関わっている。本稿は，教師の効果的な伝達方法とはどのようなものであるかの基礎的研究として，落語家の話し方で示唆される伝達手段がどのようなものであるかを調べようとしたものである。具体的には，伝達手段としての話し方を言語的なものと非言語的なものとに分け，前者を手掛りに後者を分析している。

今回，教師の話し方との比較対象として落語家の話し方を取り上げるのは，主に次の二つの理由による。

① 言葉による対人的交互作用が少ない代表例として位置づけられる。

＊岩手大学教育学部附属教育工学センター

② 観客を笑わせるために最も訓練された話し方の一つであり，授業場面における教師の話し方考察のための一つの基準と出来る。

①については，授業における教師の話し方と比べてみると，一般に教師が児童・生徒と発問・応答を中心とする遣り取りが多いのに対し，落語家は観客と言葉による遣り取りが比較的少ない状況と見なすことが出来る。中には，故人の林家三平氏のように，観客に拍手を要求するなど，例外はあったが。

また，②については，授業分析の手段として現在，絶対的なスケールが開発されていないため，落語を一つの比較のための対象として選定出来るのではないだろうかと考えたことによる。従来は，例えばフランダースのカテゴリー分析に見られる通り，開発した一つのスケールでもって二つの授業を分析し，その結果を比較することから，そのスケールで捉えられる授業の特徴を明らかにしていた。ここでは，二つの異なる授業の比較ではなく，落語家の話し方との比較を行うことを前提にしてみた。

2. 研究目的

本稿は，Ekman ら（注１）の主に例示的動作の分類を用いて，落語家の身体動作の特徴を量的に明らかにする。

3. 先行研究

ここでは，落語家の話し方についての研究は取り上げず(注２)，本稿で取り上げる Ekman らの分類方法を用いた研究について取り上げる(注３)。

Ekman らの分類方法そのものを検討しているものに東山安子ら（注４）の研究がある。東山らは，文化的視点から Ekman らの分類を日本人の身振り 100 に適用した結果，分類法全体について，①分類項目間の重複性と②分類の基準となるべき示差的特徴の曖昧性のあること，を二つの問題として指摘している。

こうした分類法の検討そのものではなく，実際の授業場面に適用するものとしては，横山一郎（1982）（注５）の研究と大島敏ら（1986）（注６）の研究とがある。いずれも分析対象は体育授業についてである。

横山一郎は，単純な比較は出来ないものの，言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの割合をそれぞれ 28.8 %，71.2 % と算出している。また，教師，リーダーそしてメンバーといった役割によって異なる身体動作の傾向があること，教師の例示的動作ではバトン信号に特徴があることを見出している。

4. 分析対象

落語『つる』（桂歌丸）（昭和62年７月11日(土)午後11時25分～同55分ＮＨＫ東北地区テレビ放映『演芸指定席（場所：東京・新宿末広亭)』による)。

この『つる』という落語の概要は次の通りである。まず，八つぁんが隠居の所に訪ねてくる。八つぁんが床屋での集まりの時，床の間に鶴の絵が掛かっているのを六んべが見て,「鶴は日本の名鳥だ」と言ったのを聞いて，六んべに「どうして名鳥か」と聞いたが,「訳は分かんねえ」というので，隠居さんに聞きに来たんだと話す。そこで隠居は，「つる」の言われを八つぁんに教えてやる。八つぁんは覚えたての知識を誰かに伝えたくて，龍んべの所でそれを披露するが，よく覚えていないことに気づく。再び，隠居に教えて貰い，再度，龍んべの所で説明をするのである。

落語『つる』を取り上げるに当たり，他に二つの落語『強情灸』（小遊三）と『紙一重』（小ゑん）を比較した。今後の研究で，小学３・４年生に落語を聞いて貰った印象を調べる上で，これら三つの中では，内容が比較的単純であると思われたので，この『つる』を選択した。今後，落語を

順次分析する予定である。

5. 記録方法および使用機器

テレビ番組を録画したものに，百分の一秒までの時間を挿入し（実際の記録は3／100秒毎である），コマ送りで時間毎の画像を調べるとともに，必要に応じてビデオコピープロセッサーで画像のハードコピーを作成した。

具体的には次の機器を使用した。

① タイマー挿入機器：朋栄株式会社製ビデオタイマーＶＴＧ－33

② 録画画像の再生機器：松下電器産業株式会社製ＡＧ－2910

③ 画像のハードコピー作成機器：三菱電気株式会社製ビデオコピープロセッサＳＣＴ－Ｐ70

6. 動作の分類カテゴリー

本稿で用いた分類カテゴリーは表1に示す通り，

表1 身体動作の分類カテゴリー

例示的動作		
	①バトン	ある特定の語を強める動作
	②アンダライナー	句、節、文または、ひとまとまりの文を強調する動作 ・上記①のバトン以外で、つまりある特定の語以上のものを強調する動作を指す ・以下の分類に入らない大部分の動作は、②で処理する（規則1）
	③リズム動作	話の調子をとる動作 ・上記①②と関連が深いが、⑫には分類出来ない ・話ながら首を左右に揺する動作や話の転換部で手拍子を打つ動作はこれに分類する
	④数字動作	発言に出てくる数字を、指・手・腕を使って示す動作
	⑤数え挙げ動作	事物や事象を数え挙げる動作 ・「松と梅」と事象を一つ宛指示する動作を含む、事象を一つ宛の数として列挙する場合を含む（規則2）
	⑥空間動作	大きい・小さい、または遠い・近いの空間関係を描く動作 ・こちら・あちらの距離関係を描く動作
	⑦象形動作	空中で物の形をかたどる動作 ・活動動作や様態動作と混同しやすいので注意 ・時間が比較的長くかかる（規則3）
	⑧活動動作	動きそのものを示す動作 ・擬声語（「ポイ」、「ゴクン・ゴクン」、「ガツガツ」）を伴う動作である（規則4）
	⑨様態動作	様態を示す動作
	⑩指示動作	眼前にある対象を指し示す動作 ・指示動作は対象を指し示すだけで、指し示した指などの移動は含まない ・移動を含む場合は空間動作に入れる（規則5） ・空間動作の初めは、指示動作と間違いやすいので注意
例示的動作以外の動作		
	⑪感情表出	・微笑み・笑い・驚きが中心である
	⑫エンブレム	・単独で用いられる場合（イエス、ノー）（単） ・言葉に伴う場合（ノーと言いながら手を横に振る）（言）

規則1～5は筆者が加えたものである。
・（単）とは、身体動作が単独で用いられる場合を指す。
・（言）とは、身体動作に言葉を伴う場合を指す。

主に例示的動作（発話の内容または流れ，あるいはその両方と密接に結びついた動きであり，これは，発話との関係から，タイプ分けがなされる）を中心としている。この他，感情表出とエンブレムとを含んでいる。ただし，ここで言うエンブレムは，より例示的動作に近い性格を有している。つまり，本来であれば，エンブレムはＯＫサインやＶサインが示す通り，動作単独で意味を示すのに対し，ここで取り上げたエンブレムは言葉を伴っている点で例示的動作に分類すべきではないかと思われた動作である。本稿では，肯定や否定を示す動作をエンブレムとして取り上げ，それが動作のみで示される場合を（単）とし，動作に言葉を伴う場合を（言）として区別する。

7. 分析の結果と考察

分析記録は末尾に一部分を添付する。ここでは，それらの分析記録を整理した結果と考察を述べる。

(1) 話者内交互作用と対人的交互作用

落語における交互作用には二つの場合がある。一つは，落語家と観客との間で交わされる言葉や笑いを中心とするもので，これは通常，交互作用と言った場合に想定されるものである。もう一つは，落語家自身が内容に関わり二役を演ずるために生ずる交互作用である。一人二役における，場合によってはそれ以上の人数の役を演ずるなど同一人内部での役の上での交互作用である。本稿では，前者を対人的交互作用と呼び，後者を話者内交互作用と呼ぶことにする。そこで，はじめに話者内交互作用の特徴から見てみよう。

〔話者内交互作用の特徴〕

身体動作から分かった話者内交互作用の特徴は次の通りである。

桂歌丸氏の場合，一人二役（三役）を演ずる時，顔の向きを左右に変えることで実現している。先ず，①役柄で顔の向きを左右に変える度数は62回（二役，または三役），また②話の内容が長い場合に顔の向き変える度数は18回（同一人物の役）である。一般的には，①の顔の向きを変えることは，ＶＴＲ記録の分析によらなくても知ることが出来る。これは，数学におけるトリビアル（つまらない）解に似ている。しかしＶＴＲ分析から，役柄で顔の向きを左右に変える場合には，必ず，マブタを開閉していることが判明した。この状況を写真の１～３，16～19，21～24に示す。

写真１：01分19秒35
「隠居さん，今日は」へ移る前。
（「こういうのが，隠居の所に訪ねて参りますと，大概，この一席の落語になっているようでして」と表現し終わった状態）

写真２：01分19秒45
「隠居さん，今日は」へ移る直前。
目を閉じる。

写真３：01分19秒65
「隠居さん，今日は」と入る。

写真16：01分43秒83
「おかずは鮭」と聞いた所。

写真17：01分44秒03
別人の役に入るために，目を閉じ始めた(その1)。

写真18：01分44秒07
別人の役に入るために，目を閉じた所(その2)。

写真19：01分44秒10
別人の役として，目を開けかけた所。(「そうじゃないよ。」と続く。)

写真21：02分04秒92
「床屋かなんかに集まって，くだらない話をしてたんじゃないのかい。」と言い終わった所。

写真22：02分04秒99
次の役に入る手前で，目を閉じた所。

写真23：02分05秒02
次の役に入るために，目を開け始めた所(その1)。

写真24：02分05秒05
次の役に入るために，目を開け始めた所(その2)。(「隠居の前ですけど，近頃，主に，くだる話をしてましたよ。」と続く。)

ところで，話者内交互作用では，本稿で取り上げた分類カテゴリーを適用する場合に混乱を生ずる。なぜなら Ekman らの分類は話者内交互作用と対人的交互作用の両方を区別しては作られていないからである。

〔対人的交互作用の特徴〕

対人的交互作用の特徴を次に述べる。観客との交互作用の目安は二つある。一つは観客に対して，目前で直接指示する動作である。それは，全時間の約5％を占めている（厳密な計測は，後述する通り，音声波形をオシロスコープで記録するなどの作業が必要である。この段階の数値は冒頭にどれも「約」を付ける必要がある)。もう一つは，笑いの占める割合である。これは，落語が観客に受けているかどうか，落語の面白さに関わっている。笑いの時間は1分44秒59と9.3％を占めている(ただし，最後に観客が落語家に対して示す笑いは除いている)。観客の笑いの度数は39回で，その平均時間は2秒68である。

観客の笑いは，落語家の話の合間に生じている（これはＶＴＲ記録の単純な視聴から言えることで，笑いの前段階が存在するものと思われる)。そこでは，落語家は観客がどこで笑うかを知っているかのようである。これは，落語が観客の笑いを予想して，どこで笑わせるかを予定して，練習を積んでいる成果と見なすことが出来る。教師が生徒の反応を予想して，授業を構成することに似ている。

以上の二つの交互作用を前提に，言葉と身体動作との関わりを次に見てみよう。

(2) 準言語的要素と身体動作の加味

私達は言葉を発するためには口を開かなければならない。言葉を発することが口を開くという身体動作としての表現になるということは，御飯を食べるために口を開くのと同様に，さして新しい

ことではない。

しかし，話者が自分自身の感情を込めて言葉を発する場合には，同じ口を開く動作でも大いに異なる現象として捉えることが出来る。それが，どうしても表現したいと言う押さえ難い感情表出である場合には，尚更，そうであろう。それは，声の昂りなど言語に準じた，つまり準言語的要素で表現されることが多い。同時に，からだ全体の動きとしてそれは表現されている。

桂歌丸氏の場合，普通に言葉を発する部分は落語開始から19秒ほどであり，それ以降は，声の調子の変化と共に身体動作が無意識のうちに加味された話し方（沈黙や間を含む）となっている。

このことから，身体動作は無視出来ない研究対象となることが予想される。つまり，身体動作は同時に話される言葉と極めて連動しているからである。

量的分析の結果，言葉に伴う身体動作は，落語の全時間の約二分の一を占めている。集計結果は，落語の総時間が12分35秒92に対し，身体動作が言葉に伴う時間は6分15秒63を占めている。総時間の49.69％は，言葉に伴う身体動作が占めていると言える。その他の部分は，言葉と言葉の切れ目，つまり，話の合間や沈黙が大部分を占めている。間や沈黙の測定は，オシロスコープによる音声波形の提示と落語の実演状況との提示（身体動作）を同期させるなどから，今後，厳密に行わなければならない。しかし，テープ起こしの行数比較による概算からは，身体動作の伴わない言葉は，全体で話された言葉の2割近くに満たない。音声記録の活用は今後の課題である。

次に，これら言葉と身体動作との関係をより詳細に，分類カテゴリーに基づいて見てみよう。

(3) 落語における身体動作の基本的特徴

言葉に伴う身体動作は，基本的には話言葉を補っていると見なすことが出来る。ここで「基本的には」とは，全ての身体動作は，バトンまたはアンダーライナーの二つに分類されるのではないかということである。

表2は，出現した例示的動作の相対度数を示している。これには，例示的動作以外の感情表出とエンブレムとを含んでいる。●印がそれである。

表2　身体動作の割合（例示的動作を主に，感情表出，エンブレムを含む）（相対度数）

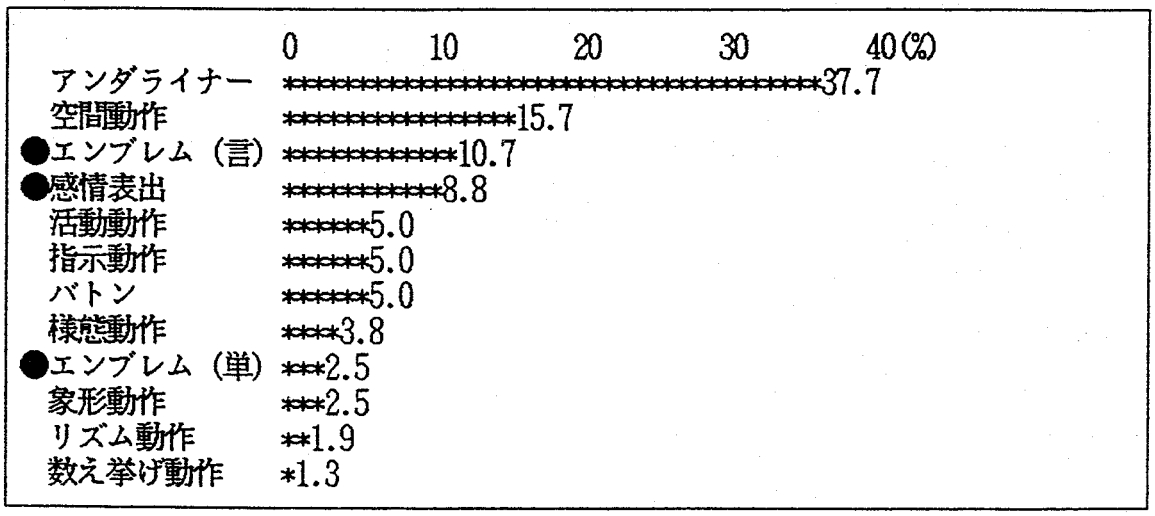


表2から分かるのは次の通りである。例示的動作で最大のものは，話言葉を強調するアンダーライナーである。それは，37.7％を占めている。これにバトン（5.0％）とリズム動作（1.9％）を加えると，44.6％が発言を強調するために使用されていると言える。

発言内容にかかわる例示的動作は，空間動作15.7％，活動動作5.0％，指示動作5.0％，様態動作3.8％，象形動作2.5％，数え挙げ動作1.3％の合計33.3％である。これらの動作は，発言を補っているものである。

また，エンブレム（言）の10.7％が示す通り，『イエス・ノー』と首を振る動作が約1割を占めている。

次に，それぞれの身体動作の平均時間を比較してみる。表3に示す通りである。表3に示す通り，様態動作は時間が長いという点で他の動作と区別出来そうである。これは，様態動作を他の例示的動作と区別する際の，一つの分類の目安となるものかもしれない。

数え挙げ動作の1秒67から様態動作の5秒50と時間のバラツキがあるものの，発言内容にかかわる例示的動作は，動作一つ当たりのその平均時間が，比較的長くなることが予想される。

身体動作の使用される時間の割合ではどうか。

表4に示す通り，アンダライナーの34.3％を最高に，空間動作の21.4％，感情表出11.4％と続いている。

表3　身体動作の平均時間の比較

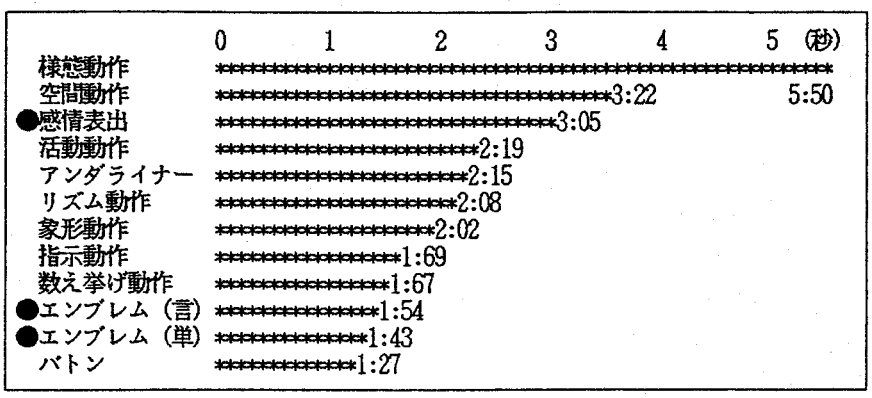
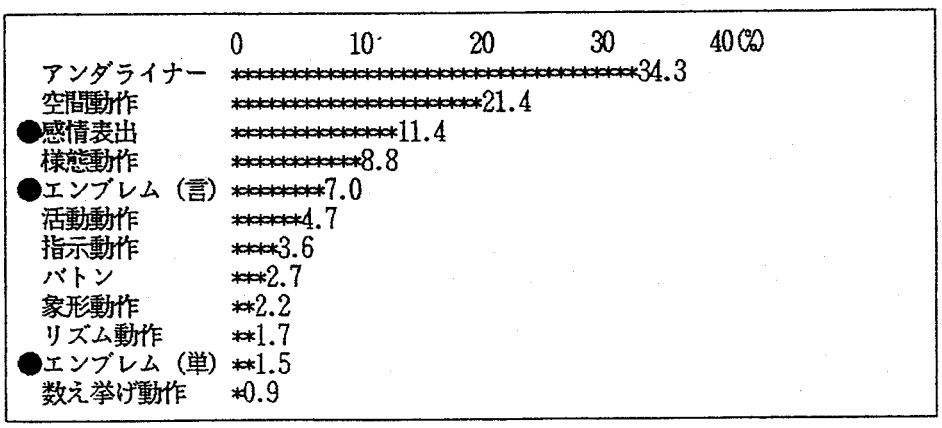


表4　身体動作の使用時間の割合



以上を纏めると次の通りとなる。

先ず，落語家の身体動作は量的には8割近くが話し言葉を補っていると言える。例示的動作の分類では，4割近くがアンダライナーとして分類され，これは発言を直接強調しており，残り4割は，空間動作，活動動作，指示動作，様態動作，象形動作など発言を補っている。その中で比較的時間のかかる動作は，様態動作や空間動作といった話す内容を説明するための動作である。

以上が，本稿での身体動作についてのものであるが，今後の課題として，落語の中味に関わり身体動作の機能を研究する必要から，特に，笑いの要因について述べよう。

そこで，笑いはどのような場合に生じているのであろうか。笑いの生じた直前の場面の幾つかを拾い挙げてみると次の通りとなる。①「落語に出てくる隠居ってのは，みんな横町に住んでます。あんまりマンションの八階の隠居ってのは出て参りませんでして」。これは落語の話のパターンが決まっていて(多くは昔風)，それと異なり，極めて現代的であることに対する驚きで笑いが生ずると解釈される。②「『八つぁん，こっちへお上がり』って言ったら，お客さんの中で『へーっ』とここに上がって来た人がいるんですよ。」。ここでは，現実には起こらないことが起きたことに対する驚きによろう。③「『まあまあ，こっちお上がり』，『御馳走様です。おかずは何』，『なんだい，その，御馳走様ですてのは』，『だって，今，隠居さんそう言ったじゃねえか，まんま，お上がりって』」。これは，同音で意味が異なる場合である。④「『隠居の前ですけど，近頃，主に，くだる話をしてましたよ。』，『なんだい，そのくだる話ってのは。赤痢の話かなんかしてたのかい。』」。これは，前述の③と同じ場合である。⑤「『隠居さん，へこの間，知らぬ，いい歳をして，へこの間だよ。壁がへっこんでてさ。前に花やなんかが生けてある所。』『床の間ってんだよ，あれは。』」。これは，言葉の言い間違いと年長者に対するおどけた態度によろう。⑥「『名鳥てのは，ソガノ屋かと聞いたんだよ。そうじゃない，名のある鳥だ，っていうんだ。』」。これは，同音意義語であり，ソガノ屋はその道の人なら知っていることだからであろう。⑦「『松に鶴，絵になんねえ。二重札なんか，奇麗だもんねえ。』」。これは，花札を知らないと笑えないであろう。……幾つかどのような場合に笑いが生ずるかを見てみると，話の内容においては，(1)同音ではあるが別の意味に取り違える時に示すおどけた態度，(2)花札や横町，ソガノ屋など，観客が一般的に知っていると思われていることを前提とした態度の表明，の二つが『つる』の落語からは指摘出来る。この他，(3)として，身体動作にそのものによる表現で笑いを誘う箇所がある。『つる』の落語の場合には，擬態語が伴っている部分である。別の落語では，例えば，三遊亭遊三氏の『強情灸』においては，お灸を我慢する動作がそれに当たる。

8. おわりに

従来，授業分析では言葉を中心に，たとえば3秒，4秒に区切るなどして分析単位が設定されてきたが，身体動作を主にすることから，分析単位が短いもので1秒から長いもので6秒の範囲で設定できるのではないかと思われる。

次に，研究対象として，言語ばかりでなく，非言語行動と言語行動の間隙が研究されるべきであろう。この中間領域は未開拓の研究分野である。

今後，本稿で述べた『強情灸』や『紙一重』をはじめ多数の落語および教授行動の分析を試み，落語の中味，面白さと関わり，教授行動との比較を行いたい。おわりに当たり，本稿は関連する先行研究のレビューも不十分なことをお断りしておく。

〔付記〕

本稿は，東北地区教師教育ネットワーク研究会

（昭和62年12月11日，福島大学教育学部附属教育実践研究指導センター）に於いて，発表したものをまとめたものである。

注及び参考文献

（注１）Ekman, P. & Friesen, W. V. The Repertoire of Nonverbal Behavior : Categories, Origins, Usage and Coding. *Semiotica*,1969, 1, pp.49 -98. Ekman, P. Biological and Cultural Contributions to Body and Facial Movement. In J. Blacking (Ed.), The Anthropology of the Body.London : Academic Press. 1977.（W.フォン・ラフラー＝エンゲル（編著）本名信行，井出祥子，谷林真理子（訳）『ことばによらない伝達　ノンバーバルコミュニケーション』大修館, 1981, pp. 3 －26.）

（注２）〔付記〕の研究発表会の席上，秋田大学の安田浩教授から，過日，東京工業大学の未武国弘教授（現在は神奈川大学）が「落語家の話し方を研究することは意義あることだ」と言っていたということを教えて頂いた。本稿では，この原稿の執筆時点において落語の話し方についての先行研究を十分調べていないので，そのレビューについては取り上げていない。

（注３）非言語的行動（身体動作）の記録については，次の拙稿で述べたので，本稿では特に取り上げなかった。

『授業技術養成講座』（仮称）第２巻第３章－４．「非言語的行動（身体動作）を記録する」（ぎょうせい，1988年出版予定）。

（注４）東山安子，ローラ・フォード「日米の文化的視点からみた身振りの一分類法」（日本記号学会『記号学研究３── セミオーシス：文化のモデュール』北斗出版）1983, pp.163 － 178 .

（注５）横山一郎「体育授業の非言語的コミュニケーション」（体育・スポーツ社会学研究会編『体育・スポーツ社会学研究１』道和書院）1982, pp.95－116 .

（注６）大島敏，農中悦子「体育授業における教授行動についての考察」（福井大学教育学部附属教育実践研究指導センター『センター紀要10』）1986, pp.123－132 .

分析記録：桂歌丸『つる』

以下に落語『つる』の分析記録の一部を掲げる。音声に関する分析は未完なので今後の分析課題であるが，どのように分析したかの参考資料となろう。

〔使用する記号の約束〕

① ●印は，身体動作の伴う発言を示す。

② ○○：○○：○○の数字は○○分○○秒○○と時間を示す。

③ 顔の向きを左右二通りで示す。

（役が変わる場合）

⤴：観客から見て右に向ける場合（落語家は左に向けている）

⤶：観客から見て左に向ける場合（落語家は右に向けている）

（同一役でも，話の内容に変化を持たせるため，顔の向きを変える場合）

→：観客から見て右に向ける場合（落語家は左に向けている）

←：観客から見て左に向ける場合（落語家は右に向けている）

④ ♥印は，観客の笑いを示す（耳で聞いた時間であるので正確ではない）。

（以下の⑤⑥⑦は今回の報告では未完の部分である）

⑤ 落語家が話をしていない場合：○（開始時間～終了時間）（未完）

⑥ 音声による強調部分：　　下線を付ける　　（未完）

⑦ 感情表出（驚き・笑い）……ＶＴＲ（音声抜き）で確認する（未確認）

〔分析記録の実際〕（３分41秒14～６分52秒95の部分を掲げる）

●鶴っての（03：41：14～03：42：04〔頭を斜めに振り強調する〕アンダライナー）

⤶（写真58＝03：42：04）……同一人

何かい，

●本当に日本の名鳥かい（03：42：90～03：45：38〔首を上下させる〕アンダライナー）」

⤶（写真59＝03：45：08）

●「こりゃ驚いた（03：46：24～03：48：15〔体全体を後ろに反らす〕アンダライナー），

あたしゃ六さんという人を見直した，

●いゃ八つぁん，お前さんの前だけれども（03：50：98～03：52：88〔右手を前で上下させる〕指示動作）

●その通り（03：52：78～03：54：42〔首を上下させる〕エンブレム），

鶴というものは立派に日本の名鳥ですよ」

⤴（写真60＝03：57：76）

●「どうして（03：58：16～03：59：22〔頭をちょんと上下させる〕アンダライナー）

⤶（写真61＝03：59：29）

⤴（写真62＝03：59：99）

●「いや（03：59：99〜←左下へ写真63＝04：01：22）エンブレム
写真64＝04：02：03
どうしてという聞かれ方をすると，返事に窮するけれども，
●極〔ゴク〕，分かり易く言えば（04：05：70〜04：07：56〔首を上下させる〕アンダライナー），
あんな我が国，日本に
●ぴったりと（04：09：63〜04：11：4　0〔首で上下させながら唇に力を入れる〕バトン）
合っている鳥は無い。
●（04：12：17〜04：13：64〔右手を前に突き出し上下させる，呼び込みのように。〕アンダライナー）
姿，形を思い浮かべてご覧。
●脚がすーと細くて（04：15：67〜04：18：04〔両手の人差指で二本，線を上下に引き，鶴の脚をかたどる〕象形動作）
●胴がぐっーと締まっている（04：18：07〜04：20：61〔胴体を締める形をする〕象形動作）
●首が長くて嘴が長い（04：20：54〜04：22：78〔右手人差指を上下させる〕象形動作）
●おまけに，頭に，丹頂（04：22：81〜04：24：45〔頭を右手の人差指で指す〕指示動作）
というものを頂いている。
●第一八つぁんや（04：26：31〜04：27：21〔手を相手に向けて振る，呼び掛けの仕種〕アンダライナー）
日本の名木に
●松の木というものがあるだろう（04：29：52〜04：31：29〔首を前後させる〕アンダライナー）
●松に鶴（04：31：15〜04：32：69〔二箇所を右手の平でチョンチョンと指す〕数え挙げ動作）
●絵になるだろう（04：32：69〜04：33：75〔相手に確認するため指さす〕アンダライナー）
→（写真65＝04：34：96）
●（04：34：96〜04：37：06〔両手を打つ，相槌〕エンブレム）
「言われて見れば，その通りだ。
●絵になる（04：38：36〜04：39：36〔頭をチョンとうなづく〕エンブレム）←（写真66＝04：39：43）
……同一人
●松に鶴（04：39：49〜04：41：29〔右手と左手である場所を強調する〕数え挙げ動作）
●絵んなんねえ（04：41：19〜04：43：56〔後ろにそう〕アンダライナー）。
二重札なんか，奇麗だもんねえ。」
♥04：46：60〜♥04：51：00
←（写真67＝04：47：23）
●「なんの話をしているんだろう，お前は（04：47：23〜04：48：67〔後ろにそう〕アンダライナー）
●「絵になるだろう（04：50：00〜04：51：77〔相手を右手の人差指で指す〕アンダライナー）
→（写真68＝04：51：07）
●「なる（04：51：50〜04：52：20〔目をパチリとさせ，首を小さくふる〕エンブレム）。
●けど（04：53：17〜04：54：07〔首を左右に振る〕エンブレム），
隠居さんの前だけど，
●あら，随分，首が長いねえ（04：55：11〜04：57：41〔身を斜め前へ乗り出す・額に皺を寄せる〕アンダライナー）

。」
←（写真69＝04：57：58）
●「長い（04：57：88〜04：58：78〔首でイエスと頷く〕エンブレム）
」。
→（写真70＝04：58：81）
●「ヘントウセン患った時に，治り〔ナオリ〕遅いでしょう（04：59：44〜05：02：25〔前かがみになり最後に首をひよぃと上げる〕アンダライナー）
●どうすんの（05：02：55〜05：03：45〔斜め上を見上げる〕アンダライナー）
。」
→（写真71＝05：03：71）
●「お前さん，つまんないことを心配する質〔タチ〕だね（05：04：32〜05：07：45〔体を後ろに反らす・驚いた表情〕アンダライナー）
●「いや，八つぁん，お前は（05：07：55〜05：09：55〔右手で相手を指す〕アンダライナー）
鶴の首が長いといって感心をしているけれども，
●その通り（05：12：02〜05：13：26〔前に頭を下げる〕エンブレム），
今は我々簡単に，
●『あっ，鶴，（05：14：79〜05：16：89〔右手を指す〕バトン）』
なんていうことを言うけれども，
→（写真72＝05：17：19）
●昔はそうは言わなかったそうだな（05：18：53〜05：20：40〔首を左右に振り否定する〕エンブレム）
その首の長い所から，首長鳥と呼んでいたそうだ。
●古い書物を読んで首長鳥と出ているのは，みんな，これ鶴のこと（05：25：50〜05：28：87〔右手で左の方を指しながら読む仕種をする〕様態動作）
●首長鳥がいつか鶴になったんだよ（05：30：94〜05：33：54〔右手で調子をとる〕アンダライナー）。」
→（写真73＝05：33：74）
●「あっそう（05：34：28〜05：36：04〔頭を上下に振る〕エンブレム）
じゃ隠居さんに改めて聞くけどね，
←（写真74＝05：38：55）……同一人
●どういう訳で首長鳥って，そうし
→（写真75＝05：40：78）……同一人
てたのが鶴になったんだい（05：38：56〜05：41：98〔左に大きく首を動かし元に戻す〕アンダライナー）
首長鳥なら首長鳥でいいじゃねえ。どういう訳で鶴になっちゃったの。」
←（写真76＝05：46：82）
●八つぁん訳が聞きたいかい。」（05：47：02〜05：50：66〔隠居，笑いながら話す〕感情表出）
→（写真77＝05：50：69）
「んー」
←（写真78＝05：51：66）

「今日中に」
♥05：54：76〜♥05：55：98
→（写真79＝05：53：19
●（05：53：46〜05：56：03〔驚いて向きを変え見つめる〕感情表出）
「出来りゃ，今日中に願いたいね，こんなこと聞くのに三泊四日てっのは長すぎるからね
♥06：01：50〜♥06：02：83
　修学旅行に行く訳じゃねんだからね，
●手っとり早く願いたいね（06：04：77〜06：05：84〔右手で催促する〕アンダライナー）」
←（写真80＝06：05：94）
●「お前が分かんないなら，私も退屈をしているところだ教えて上げよう（06：06：37〜06：11：11〔笑いながら話す〕感情表出）
●八つぁんよーくお聞き（06：11：11〜06：13：18〔右手で相手に念を押す〕アンダライナー）
●どういう訳で首長鳥が鶴になったかと言うと（06：13：34〜06：17：38〔体を揺らす〕アンダライナー）
昔，一人の白髪の老人が，浜辺の岸頭に立って，
●小手をかざして沖を見ていると（06：23：25〜06：25：59〔右手を額に持ってくる〕空間動作）
●遥かモロコシというから（06：25：99〜06：28：56〔右手で右を指す〕空間動作）
●今の中国だ（06：28：42〜06：29：99〔首を前後させる〕アンダライナー）
●が（06：30：03〜06：30：66〔首を下に下げる〕バトン）
もろこしの方から，一羽の首長鳥の
●雄が（06：34：20〜
ッ――と（06：41：14）
飛んで来て（06：41：24）〔右手を右から左へ移動する〕空間動作）
浜辺の松の枝に
●ポイッーと止まったたんだ（06：42：17〜06：44：57〔右手をチョンと前で打つ〕活動動作），
後から雌
●が，ルー♥06：46：54〜♥06：48：48ーととんで来て（06：44：51〜06：47：98〔右手を右から左へ移動する〕空間動作）
●ツルだよ（06：48：01〜06：49：41〔相手を叩くようにする〕アンダライナー）。♥06：49：91〜♥06：54：95
→（写真81＝06：49：41）
●（06：49：48〜06：52：95〔驚いて見つめる〕〔観客の笑いが起こる〕感情表出）
（以下省略）